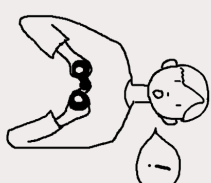




重い障害がある子どもとの
コミュニケーションに
悩んでいるお父さんお母さんへ



コミュニケーションの扉を
一緒に開けてみませんか？

子どもの気持ちを理解したい。

子どもと楽しくコミュニケーションをとりたい。

子どもを育てていると誰しも思うことです。

けれども、重度障害のある子どもたちは

動きが微細であったり、反応が遅くなったりと

その表出が分かりにくいことがあります。

そんな子どもたちとのコミュニケーションの糸口を

お父さん お母さんと一緒に見つけるお手伝いができたら...

そんな思いでこの冊子を制作しました。

コミュニケーションの糸口探しは

「子どもを知る」ことから始まります。

普段とは少し違った視点で「子どもを知る」と

新しい発見が生まれてくるかもしれません。

小さな発見かもしれません。

でも、小さな発見がたくさん出てくるかもしれません。

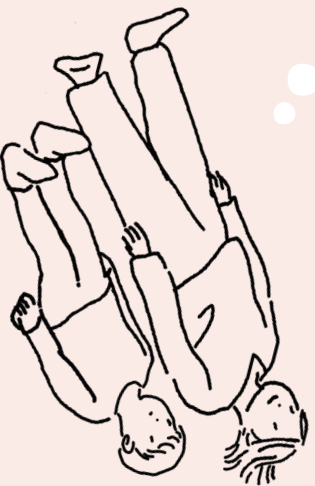
お父さん お母さんが楽しみながら

子どもたちと関わる時間が増えることを願っています。



観察してみよう

子どもと一緒に寝転がってみましょう
じっと何もせずに観察していると、いつもは気づかなかった
「発見」が出てくるかもしれません



手を動かして
1人遊び
している?!

どこかを
じっと
見ている?!

声を出して
いる!

あれ、私の方を
見ようとしている?!

意外と
ごそごそ
している?!

子どもから隠れてみよう

子どもに見えない
ところから
呼んでみよう



部屋の電気を
点けたり消したり
してみよう

香りのするものを
こっそり置いてみよう

子どもが音や光や匂いの変化に気づいたのでしょうか。
子どもの中には、それを探ろうとする子もいるかもしれません。
その子が気づいた刺激を手がかりに、
コミュニケーションをさらに深めていきましょう。

お母さんの声

「毎回の取り組みは、ステップが細かく分かりやすく、かつ、未も
参加しやすく実践しやすいものでした。 → つづ →

いつもと 違うことをやってみよう



このように、いつもと違うことをやってみることによって
子どもが意外と好みがあることに気づいたりします

取り組みを通して、次に向けた声かけややり方を考えられるようになったように思います。子どもの成長を実感すると共に保護者の成長にも繋がっていると感じています。」

大好きなものを 止めてみたら・・・？



いつもやりっぱなしで、子どもが満足できる環境をつくっていると
「いやだよ」「やめてよ」という表現がなかなか出てきません。
好きなことを止めてみることによって要求行動が引き出せるかもしれません。

お母さんの声
「これまででは、子どもと2人きりの時に何をしたらいいのかわかり
ませんでした。 →つづく→

繰り返してみよう

食事の前に
いつも決まった
音楽を流したら…？



ママだけいつも
パパパタと音のする
スリッパを
履いてみたら…？

部屋のドアに鈴をつけて
誰かが出入りするたびに
音が鳴ったら…？

毎日の生活の中に、いつも同じパターンの事が入れば
それに結びつくことができ子どもが予測できるよう
なっていくかもしれません。

けれども、この取り組みが子どもとのやりとりのきっかけとなり、
子どもと関わることに楽しくなりました。今では子どもが興味を持った
ものを使って、どんな関わり方をしようか考えるようになっていきます。」

子どもの今を黙って比べてみましょう
視点や仮説を持って比べてみると
その関わりがもっと楽しくなるはずですよ

子どもとの関わりが増えること
子どもの反応に適切なフイーディングができること
これらは子どもの成長に不可欠です

一般社団法人 在宅療養ネットワーク

東京大学 先端科学技術研究センター
個別最適な学び寄付研究部門

この冊子は日本財団の助成を受けて作成しました。

